

I. 栄町総合戦略事業に係る重要業績評価指標(KPI)の進捗状況

戦略1【安心して子育てができる栄町をつくる～子育てがしやすい元気な栄町づくり】

No.	施策名	重要業績評価						取組内容	担当課
		達成状況	指標名 (KPI)	単位	従前値 (基準年)	R5目標値	R5実績値		
1	子育てしやすい環境づくり	×	合計特殊出生率のアップ	人	1.06 (H29)	1.21 (0.15人増)	0.94 (0.12人減) ※公表前のため R4年参考値	子育てしやすい環境づくり (1) 妊娠・出産時等に安心して子育てができる環境をつくる ○出生率を上げていく ①男性の家事・育児参画を推進⇒育児応援塾 5回開催、延べ32組74人参加 ②不妊に関する総合的な支援⇒不妊相談1件、不妊治療費助成1件 ③出産祝金支給事業⇒出産時59名、1歳時49名、2歳時47名 ○妊娠・出産時等にきめ細かな支援を行う ①子育て世代の包括支援⇒子育て相談158件 うちオンライン相談0件 ②妊婦・子育てヘルパー派遣⇒利用者13人、延べ24回利用 ③産後ケア⇒宿泊型 7人 延30泊、デイケア型21人 延86日、訪問型 4人 延10日 ④マタニティ・乳児タクシー利用助成⇒利用者16人、73枚利用 ⑤産婦健診費用の助成⇒ 62人、延べ92回利用 ○子育てや育児を楽しく行える場を充実する ①キッズランドの利用促進⇒3,279組、8,232人 ②出張キッズランド (出張子育て相談) ⇒利用者141組328人	福祉・子ども課
		×	保育所待機児童数	人	4 (R1)	0 (0人)	3 (1人減)	(2) 保育ニーズに対応した子育て環境をつくる ○保育所整備を支援する ①保育所運営事業者等による整備に伴う支援と誘導⇒R5整備 1件 ア小規模保育事業所「うさぎとかめ」H28.9開所 (利用定員10名) ⇒利用者12名 (R6.3.1現在) イ認定こども園「ながと幼稚園」H29.4開所 (利用定員144名) ⇒利用者132名 (R6.3.1現在) ウ私立保育園「安食保育園」R3.8開所 (利用定員170名→120名) ⇒利用者100名 (R6.3.1現在) エ私立保育園「みなみ栄保育園」H30.4開所 (利用定員90名) ⇒利用者105名 (R6.3.1現在) ○待機児童を出さない保育士確保支援を充実する ①保育士の処遇改善支援 (H29.10～) ⇒45名 ②保育士の転入者支援 (H31.4～) ⇒対象者なし ③保育園の雇用促進助成 (R1.10～) ⇒対象者なし ○子育て世帯の経済的負担を軽減する ①子ども医療費 (高校生まで) の助成 (H31.4～) ⇒25,072名 ○子育てに関する人と人との相互援助活動をサポートする ①ファミリー・サポートセンターの設置⇒実施方法再検討 ○児童等に対する支援を推進する ①病児病後児保育の実施 (小学3年生まで) ⇒利用者95名 ②放課後児童クラブの運営 竜角寺台児童クラブ (H10.4.1～) 定員30名 (R5年度 登録人数31名) 安食児童クラブ (H10.4.1～) 定員60名 (R5年度 登録人数48名) 安食台児童クラブ (H13.4.1～) 定員60名 (R5年度 登録人数63名) 布鎌児童クラブ (H20.7.22～) 定員30名 (R5年度 登録人数25名)	福祉・子ども課
		×	キッズランドの延べ利用者数	人	13726 (H30)	14300 (574人増)	8,232 (5,494人減)		福祉・子ども課

施策の評価	×	市町村別の合計特殊出生率は公表されていないが、出生数については栄町は令和4年67人から令和5年74人に増加し、子育て支援については一定の効果は出てきているものの、目標の1.21には達しない見込みである。 待機児童については、小規模保育事業所（さかえ保育園）整備に伴う補助を行い、令和6年4月事業開始となった。0～2歳児の入所に対応できる環境を整備できたことで待機児の解消につながることを期待している。 キッズランド関連では各事業やイベント・講座の参加者は少しずつ伸びてきており、出張キッズランド（相談）などの相談事業も利用者が多くなってきているが、コロナ禍以前の利用者数まで回復するまでには至っていない。
-------	---	---

2	子どもが安心して暮らせる環境づくり	×	犯罪認知件数	件	89 (H30)	61 (28件減)	110 (21件増)	子どもが安心して暮らせる環境づくり (1) 子供たちが犯罪や事故に遭わない環境をつくる ○子どもたちを犯罪・交通事故から守る環境を充実する。 ①通学路等へ防犯カメラの設置 ・安食1130番地5地先に1台設置 防犯カメラ設置箇所：合計13箇所) ②セーフティアドバイザーによる巡回活動を実施 ・セーフティアドバイザー(※) 巡回活動：385回 (※)安食駅前防犯ボックス駐在者をいう。 ③各地区へ通学路監視員の配備 →交通安全団体による街頭監視：10箇所、延べ294人 ④広報・情報メールを活用した、犯罪・交通安全啓発活動の実施 ・情報メールによる犯罪・交通安全情報の送信数 120件 ○子どもたちを交通事故から守るため危険箇所を改善する。 ①通学路整備の推進 ・布鎌小学校区1路線 通学路整備測量・実施設計業務実施 (飛び込み防止柵) ・安食台小学校区2箇所 (道路標識・カーブミラー設置) ・布鎌小学校区6箇所、安食小学校区7箇所、安食台小学校区25箇所	くらし安全課
		◎	交通事故件数	件	23 (H30)	23 (0件)	20 (3件減)	くらし安全課 都市建設課	
施策の評価		○	犯罪認知件数については従前値より21件増加し、目標値は達成できなかった。犯罪認知件数は全国的に増加しており、新型コロナウイルスの位置づけが5類に移行し、生活活動が活弁なったことが大きな要因と思われる。犯罪を抑制するには、犯罪を起こさせない環境づくりが必要なことから、今後も防犯団体、警察署と連携を図り、パトロールの実施、防犯啓発の推進及び防犯カメラ、防犯灯の適正な配備により犯罪発生の未然防止に努める。 交通事故件数については、交通安全団体と連携した交通安全の啓発活動、街頭監視等を実施した。また、通学路交通安全プログラム点検の結果を踏まえ、計画的な通学路整備工事を実施し目標を達成した。人口1万人あたりの交通事故発生件数は県内市町村で1位の最小件数となった。今後も警察署、道路管理者等と連携したソフト・ハード両面から危険箇所の解消に努める。						

3	子どもの学力が向上する学校づくり	×	県標準学力テストの県平均を上回った各学年教科数の割合	%	71 (H30)	85 (14%増)	35 (36%減)	子どもの学力が向上する学校づくり (1) 分かる・できる喜びを感じることができる学習を通して、学力向上を目指す ○教育環境の充実 ①小学校の大規模改修(1件) ・安食小学校グラウンド改修工事 ○地域の教育人材を活用して学力向上を図る ①わくわくドラム(学力と学習意欲の向上に向けた学習道場)の推進 ・サタデーわくドラ(5月下旬から2月中旬にかけて全13回実施。15回実施計画だったが、荒天により2回中止となった) - 小学生50名(11名減)、中学生22名(10名増) - 学習支援ボランティア113名(40名増) ・サマーわくドラ(夏季休業中に13回実施) - 小学生143名(8名減)、中学生16名(4名減) - 学習支援ボランティア102名(増減0) ・ウィンターわくドラ(冬季休業中に2回実施。中3特別わくドラ4回実施) - 小学生78名(8名増)、中学生20名(14名増) - 学習支援ボランティア66名(8名増) ○国際感覚を磨く教育を充実する ①中学生の海外派遣(オーストラリアメルボルン)8/17(木)～25(金)7泊8日 - 参加者：引率職員2名、生徒14名 - 事前研修：6/9(金)～8/16(水)全13回 - 結団式(栄町役場大会議室)：7/28(金) - 事後研修(報告書作成、報告会準備)8/28(月)～9/27(水) - 報告会(日本食研干菜本社)：9/28(木) ②外国語教育の推進 4小学校に2名(学級数に応じて週2～3日)、中学校に2名(週5日)を配置 ※令和5年8月から中学校に1名増員し計2名となった。 ③英語検定受検助成(助成実績108名) 5級9名、4級31名、3級44名、準2級19名、2級5名 <合格率> 5級55.6%、4級58.1%、3級56.8%、準2級26.3%、2級20.0% ○個に応じた学習を支援する ①学校支援員・学習サポーター等の配置 ・学校支援教員を4小学校に7名配置 ・特別支援学級の児童生徒数に応じて、介助員を3小学校に6名、中学校に2名配置 ・教員が児童生徒と向き合う時間を確保するため、教員アシスタント職員を全校に配置(5校8名)し、配布文書や学習プリントの印刷、集金業務等のサポートを行うことで、教職員が児童生徒への個別対応や授業準備・教材研究等の時間を確保した。 ・栄中学校を会場にICTの効果的な活用をテーマとした教職員公開研修会を実施し、町内教職員が参観し研修を行った。 ○子どもたちの興味関心を高めるICT教育の推進 ①学力向上につながるICT教育の推進 ・ICT支援員による操作方法の援助や教師のICTを活用した授業づくりに対して指導助言をしている。また、支援員が、ICT活用についての校内研修や町の教職員研修の講師等も行い、教職員の資質向上を図っている。 ②タブレット端末活用による効果的授業の実施 ・全児童生徒に貸与しているタブレット端末のメンテナンスと活用支援。 ・デジタル教科書の整備 ・全小中学校への学習eポータルの整備	教育課
		×	中学校在籍時までの英検3級合格児童・生徒の割合	%	41 (H30)	60 (19%増)	34.1 (7%減)	○国際感覚を磨く教育を充実する ①中学生の海外派遣(オーストラリアメルボルン)8/17(木)～25(金)7泊8日 - 参加者：引率職員2名、生徒14名 - 事前研修：6/9(金)～8/16(水)全13回 - 結団式(栄町役場大会議室)：7/28(金) - 事後研修(報告書作成、報告会準備)8/28(月)～9/27(水) - 報告会(日本食研干菜本社)：9/28(木) ②外国語教育の推進 4小学校に2名(学級数に応じて週2～3日)、中学校に2名(週5日)を配置 ※令和5年8月から中学校に1名増員し計2名となった。 ③英語検定受検助成(助成実績108名) 5級9名、4級31名、3級44名、準2級19名、2級5名 <合格率> 5級55.6%、4級58.1%、3級56.8%、準2級26.3%、2級20.0% ○個に応じた学習を支援する ①学校支援員・学習サポーター等の配置 ・学校支援教員を4小学校に7名配置 ・特別支援学級の児童生徒数に応じて、介助員を3小学校に6名、中学校に2名配置 ・教員が児童生徒と向き合う時間を確保するため、教員アシスタント職員を全校に配置(5校8名)し、配布文書や学習プリントの印刷、集金業務等のサポートを行うことで、教職員が児童生徒への個別対応や授業準備・教材研究等の時間を確保した。 ・栄中学校を会場にICTの効果的な活用をテーマとした教職員公開研修会を実施し、町内教職員が参観し研修を行った。 ○子どもたちの興味関心を高めるICT教育の推進 ①学力向上につながるICT教育の推進 ・ICT支援員による操作方法の援助や教師のICTを活用した授業づくりに対して指導助言をしている。また、支援員が、ICT活用についての校内研修や町の教職員研修の講師等も行い、教職員の資質向上を図っている。 ②タブレット端末活用による効果的授業の実施 ・全児童生徒に貸与しているタブレット端末のメンテナンスと活用支援。 ・デジタル教科書の整備 ・全小中学校への学習eポータルの整備	教育課
		◎	タブレットを使った授業数	件	0 (H30)	200 (200増)	11,293授業数 (11,293授業数増)	○個に応じた学習を支援する ①学校支援員・学習サポーター等の配置 ・学校支援教員を4小学校に7名配置 ・特別支援学級の児童生徒数に応じて、介助員を3小学校に6名、中学校に2名配置 ・教員が児童生徒と向き合う時間を確保するため、教員アシスタント職員を全校に配置(5校8名)し、配布文書や学習プリントの印刷、集金業務等のサポートを行うことで、教職員が児童生徒への個別対応や授業準備・教材研究等の時間を確保した。 ・栄中学校を会場にICTの効果的な活用をテーマとした教職員公開研修会を実施し、町内教職員が参観し研修を行った。 ○子どもたちの興味関心を高めるICT教育の推進 ①学力向上につながるICT教育の推進 ・ICT支援員による操作方法の援助や教師のICTを活用した授業づくりに対して指導助言をしている。また、支援員が、ICT活用についての校内研修や町の教職員研修の講師等も行い、教職員の資質向上を図っている。 ②タブレット端末活用による効果的授業の実施 ・全児童生徒に貸与しているタブレット端末のメンテナンスと活用支援。 ・デジタル教科書の整備 ・全小中学校への学習eポータルの整備	教育課

施策の評価	△	千葉県標準学力テストの結果を見ると、県平均点を上回る学年教科数が３５％と目標値を下回り、昨年度より９ポイント減少した。算数数学で、令和４年度に比較し平均値の差が広がった学年教科数が１３／２６と算数数学の学力向上が課題であるといえる。全国学力学習状況調査の傾向と併せて分析すると「獲得した基礎基本」を活用する力に劣ることがわかる。今後は、授業で学んだ内容の定着とそれらを活用し「思考・判断・表現」する力を伸ばす授業改善を進めるよう支援をしていく。国語科においては、県平均を上回るもしくは昨年度に比較し平均値が県平均に近づいた学年教科数が１４／２６と向上の兆しが見られた。これは、小中連携プロジェクトで「自分の言葉でまとめを書く」という取り組みが語彙力や表現力（書く力）の向上に結び付いたと考える。千葉県教育委員会からは「自分の言葉でまとめを書く」ことが、学習内容の定着にとっても効果的であると推奨されており、全ての教科領域で現在の学習形態を継続し学力向上を目指していく。 令和５年８月からＡＬＴを１名増員し、中学校に２名、小学校には２校に１名ずつ計２名（町内計４名）を配置し、外国語教育の充実を図っている。特に中学校では、全ての英語科の授業において英語教師とＡＬＴとのチームティーチングが可能となり、ネイティブイングリッシュに毎時間ふれることができ充実した授業展開が図られている。英語検定助成事業では、中学校３年生卒業時に準２級取得者９名、３級取得者３３名で３級以上取得者が４２／１２３名（３４．１％）と従前値より約７ポイント減少し、目標値に対する達成率は５６．７％となった。。しかし、準２級以上の上位級に挑戦する数は増加しており、外国語教育の充実に向けた取組が少しずつ成果として表れてきている。助成実績については、当初予算６４８，９００円に対して、４４８，７００円の助成となり執行率６９．１％だった。今後は、社会教育のわくわくドラムの対策講座などと連携を図り、英語検定に挑戦する生徒数を増やし外国語教育の更なる充実を図っていく。 タブレットを使った授業数は、目標値２００授業数に対して１１，２９３授業数（昨年度比７０４３増）となっており、ＩＣＴを活用した授業展開が広く普及している。これは、ＩＣＴ支援員を活用した研修や各学校の情報教育担当者が活用についての情報発信を積極的に行うことにより、教職員のＩＣＴを活用した授業づくりに対する意識が向上した成果であると考え。今後の課題としては、ＩＣＴ活用が苦手な教職員や教科による活用数の差が大きくなっている現状がある。全ての教職員が、抵抗なくＩＣＴを活用することができる資料や情報提供、研修の充実を図りＩＣＴを活用した授業改善を推進し、学力向上に結び付けていく。
-------	---	---

戦略2【地域特性を生かし、産業が活性化した栄町をつくる～産業を活性化させ、働きやすい栄町づくり～成田空港に近い利点を活かした多くの観光客が訪れる栄町の発展を促す】

No.	施策名	重要業績評価						取組内容	担当課
		達成状況	指標名 (KPI)	単位	従前値 (基準年)	R5目標値	R5実績値		
1	収益性の高い農業が展開できる栄町づくり	×	黒大豆関連商品販売額	千円	37500 (H30)	47,580 (10,080千円増)	40,960 (3,460千円増)	収益性の高い農業が展開できる栄町づくり (1) 農産物の高付加価値を図る ○黒豆街道によって地域経済活性化を図る。 ①栽培支援 ア. 黒豆街道の整備 ・特産品栽培強化奨励金の支給 (個人8件、事業者1件) ・面積拡大者3名、貸出協力者6名 圃場面積全体では0.7ha増加したが、黒豆街道該当箇所の増加なし ②PRの強化を図る ア. 知名度や認知度を高めるPRの実施 ・PRイベント (町内飲食店、SAKAEリバーサイド・フェスティバル、JA直売所、西市、リバーサイドさかえドラムマラソン) ③加工品や6次化商品の開発推進 ・黒大豆をきな粉等でコーティングした新しい甘納豆を開発中であるが、商品化には至っていない。 ○米のブランド化を進める ①コメの食味値向上へ向けたコンテストの開催や研修の実施 ・栄町産米食味コンテストの実施 (36人出品) (2) 担い手農家を増加させる ○多様な担い手の育成と確保を推進する ①営農セミナーの参加促進や若手農家を支援する資金の援助 ・農業次世代人材投資資金 (経営開始型) による資金の援助 (2名) ・R5年度新規認定農業者2名 (3) 農地の大規模化・集約化を図る ○担い手への農地利用集積により経営規模の拡大を図る ①中間管理事業を活用した農地集積 (集積率 33.9%)	経済環境課
		×	黒豆街道の圃場等の面積拡大	ha	2.5 (R1)	4.5 (2.0ha増)	3.2 (0.7ha増)		経済環境課
		○	新たな黒大豆加工品の商品開発数	品	19 (H30)	31 (12品増)	28(累計値) (9品増)		経済環境課
		◎	6次化商品数	品	15 (H30)	19 (3品増)	21(累計値) (6品増)		経済環境課
		×	認定農業者数	人	41 (H30)	48 (7人増)	42 (1人増)		経済環境課
		×	担い手への農地の利用集積面積	ha	503 (H29)	684 (181ha増)	481 (22ha減)		経済環境課
施策の評価		△	・黒豆の生産者は、新規生産者が2名 (個人1名と法人1社) 増加したが、販売額や圃場面積については目標を達成しなかった。今後は、新規オーナーの拡大や新たな加工品の売上が増加するようオーナー募集や黒大豆関連商品のPRを更に推進していく。 ・認定農業者数については、新規に2名が認定になったが、高齢のため更新しない農業者がいたことにより目標を達成できなかった。 ・担い手への農地の利用集積目標面積503haに対し、担い手への農地の利用集積を進めているが、担い手農業者は減少しており、集積実績は481haとなった。農業委員および農地利用最適化推進員に対して研修会を行い、事業の理解をより一層深めていく。						

2	経済活性化の新たな拠点づくり	×	栄町まちづくり会社の売上額	千円	—	1,000 (1,000千円増)	360 (360千円増)	経済活性化の新たな拠点づくり (1) 農業所得の向上・商業の活性化のための新たな拠点を作る ○ドラムの里の再整備をする ドラムの里活性化事業 (1) 運営組織(会社) 基盤整備事業 ・運営組織(会社) 設立に向けた人材確保・育成・人件費など (2) ドラムの里再生に向けた開業準備事業委託 ・施設への出店者選定・提供プログラム開発・収支計画策定・販促計画策定など (3) ドラムの里開業準備事業委託(デジタルプラットフォーム構築事業) ・デジタル技術導入に関する調査・立案など (4) ドラムの里活性化協議会補助金(内訳詳細) ①イベント・プロモーション事業 ●町内で開催するイベント内でのPR及び町内産品ブースの出店 ・リバーサイド・フェスティバル(10/21)来場者数 延べ30,000人 ・ドラムマラソン(2/18) 参加者数 1,940名 ●ドラムの里を会場にしたイベントの開催 ・ゆかたまつり(8/5) 来場者数7,600人 ・新米フェスタ(11/3) 来場者数5,000人 ●町外イベントでのプロモーション ・成田伝統芸能まつりでのプロモーション ②商品・サービス開発事業 町産品を活用して食品会社との新商品の共同開発 (フードコーディネーターのサポートにより商品開発を実施) ●いちごジャム開発費 →いちごジャム 試作品数 200個 ●バックご飯開発 試作品数 白米800個 玄米 800個 ※毎ジャム及びバックごはんについては、ドラムマラソン(2/18)、ドラムの誕生日会(2/25)、さくらまつり(3/23-24)でサンプルを配布し、アンケートを実施した。) ●ドラムグッズ開発 →ドラムグッズ試作品作成(10種類) ドラムマラソン(2/18)、ドラムの誕生日会(2/25)、さくらまつり(3/23-24)でサンプルを配布しアンケートを実施 【栄町まちづくり会社の売上額及び取扱い出品数】 イベントプロモーション事業と連携し、ドラムの里活性化協議会構成員が生産する米、どら豆、トマト等の販売を実施 【独自商品の開発数】いちごジャム1種類+バックご飯2種類+ドラムグッズ10種類=13種類 【観光入込客数】ドラムの里入込数=60,618人	経済環境課
		×	栄町まちづくり会社の取り扱い商品数	品目	—	100 (100品目増)	20 (20品目増)	●ドラムの里を会場にしたイベントの開催 ・ゆかたまつり(8/5) 来場者数7,600人 ・新米フェスタ(11/3) 来場者数5,000人 ●町外イベントでのプロモーション ・成田伝統芸能まつりでのプロモーション ②商品・サービス開発事業 町産品を活用して食品会社との新商品の共同開発 (フードコーディネーターのサポートにより商品開発を実施) ●いちごジャム開発費 →いちごジャム 試作品数 200個 ●バックご飯開発 試作品数 白米800個 玄米 800個 ※毎ジャム及びバックごはんについては、ドラムマラソン(2/18)、ドラムの誕生日会(2/25)、さくらまつり(3/23-24)でサンプルを配布し、アンケートを実施した。) ●ドラムグッズ開発 →ドラムグッズ試作品作成(10種類) ドラムマラソン(2/18)、ドラムの誕生日会(2/25)、さくらまつり(3/23-24)でサンプルを配布しアンケートを実施 【栄町まちづくり会社の売上額及び取扱い出品数】 イベントプロモーション事業と連携し、ドラムの里活性化協議会構成員が生産する米、どら豆、トマト等の販売を実施 【独自商品の開発数】いちごジャム1種類+バックご飯2種類+ドラムグッズ10種類=13種類 【観光入込客数】ドラムの里入込数=60,618人	経済環境課
		◎	独自商品の開発数	品目	—	5 (5品目増)	13 (13品目増)	●ドラムグッズ開発 →ドラムグッズ試作品作成(10種類) ドラムマラソン(2/18)、ドラムの誕生日会(2/25)、さくらまつり(3/23-24)でサンプルを配布しアンケートを実施 【栄町まちづくり会社の売上額及び取扱い出品数】 イベントプロモーション事業と連携し、ドラムの里活性化協議会構成員が生産する米、どら豆、トマト等の販売を実施 【独自商品の開発数】いちごジャム1種類+バックご飯2種類+ドラムグッズ10種類=13種類 【観光入込客数】ドラムの里入込数=60,618人	経済環境課
		◎	観光入込客数	人	—	10,000 (10,000人増)	60,618 (60,618人増)	●ドラムグッズ開発 →ドラムグッズ試作品作成(10種類) ドラムマラソン(2/18)、ドラムの誕生日会(2/25)、さくらまつり(3/23-24)でサンプルを配布しアンケートを実施 【栄町まちづくり会社の売上額及び取扱い出品数】 イベントプロモーション事業と連携し、ドラムの里活性化協議会構成員が生産する米、どら豆、トマト等の販売を実施 【独自商品の開発数】いちごジャム1種類+バックご飯2種類+ドラムグッズ10種類=13種類 【観光入込客数】ドラムの里入込数=60,618人	経済環境課
施策の評価		○	ドラムの里の活性化に向け、令和4年度にドラムの里活性化協議会を立ち上げ、集客力の向上とドラムの里のPRに向けたイベントを実施した。コロナ禍明けにより行動制限がなくなったため、インバウンド客も回復傾向にあり外国人観光客も含めた利用者が増加に転じた。今後は、新たな(仮称)まちづく会社の立ち上げ及び人材の発掘に向け、協議を継続していく。						

3	将来に向けて商工業が 発展した栄町づくり	◎	創業・起業・事業継承 件数	件	7 (H29)	31 (累計値) (24件増)	60 (累計値) (53件増)	将来に向けて商工業が発展した栄町づくり (1) 起業しやすい環境を作る ○創業・開業を支援する 創業・起業を支援するため、町商工会、県信用保証協会と連携し、創業支援を実施 ・【町】 創業者に対し創業補助金を交付 (6件) ・【商工会】 事業承継2件、事業継続支援 (計画策定) 10件 合計18件 ○空き店舗を活用して賑わいを図る ・空き店舗への出店3件	経済環境課
		◎	空き店舗の活用件数	件	1 (H30)	5 (累計値) (4件増)	7 (累計値) (6件増)	(2) 旧商店街を活性化する ○既存商店を活性化する ①自ら頑張ろうとする商店のPRや店舗買取費用の一部支援等を検討 ・頑張る事業者応援事業 219件 町内での事業継続を支援するための補助事業 ④まちなかイベント広場を活用整備 ・まちなかイベント広場を活用したイベントの実施 (西市)	経済環境課
		◎	企業誘致数	件	1 (H30)	2 (累計値)	2 (累計値) (1件増)	(3) 工場が立地・増設しやすい環境を作る ○企業が進出しやすい環境を作る ①進出希望企業のニーズの把握 ・金融機関を通して町の情報を発信	経済環境課
		×	矢口工業団地内企業の 雇用数	人	370 (H29)	480 (110人増)	386 (16人増)		経済環境課
施策の評価		○	栄町商工会と連携した創業支援補助事業の活用が進み、新しく町内で新規にビジネスをスタートする動きが見られ、空き店舗の活用も進んだ。今後も商工会と連携し、既存の町内事業者の支援や、スタートアップ企業の支援を推進していく。						

戦略2【地域特性を生かし、産業が活性化した栄町をつくる～産業を活性化させ、働きやすい栄町づくり～成田空港に近い利点を活かした多くの観光客が訪

No.	施策名	重要業績評価						取組内容	担当課
		達成状況	指標名（KPI）	単位	従前値（基準年）	R5目標値	R5実績値		
4	町を訪れる観光客を増加させ地域経済の活性化を図る栄町づくり	×	ドラムの里利用者数 （物産館+レストラン）	千人	101（H30）	108 （6千人増）	59千人 （42千人減）	（1）情報発信力の強化を図る ○町の観光施設であるドラムの里で実施されるイベントなどの情報を、ホームページやSNSに掲載した。また情報発信の仕方について寄せられた要望について可能な限り対応し、改善していった。	経済環境課
		×	空港などからの新たな交通手段	路線	—	2 （2路線増）	0路線 （増減なし）	（2）コスプレを活用して地域経済の活性化を図る ○忍者教室など子どもや家族連れに人気の高い体験教室を開催する ・忍者体験教室の開催 2日間 21名参加 ※イベントの動画を撮影、編集しコスプレの館内で放映中 ○成田空港周辺市町や観光協会などと連携した事業を展開する ・成田空港と連携しSNSを活用した情報発信 ※栄町は黒豆、コスプレ体験、房総のむら等の記事を掲載 成田空港周辺地域国際観光推進協議会との連携 ※ポスター作成、外国メディア招致、海外プロモーション派遣等 ○着れなくなった衣装を小物類（巾着や髪飾りなど）にリメイクし、イベント時や訪日外国人などに配付する ○町外でのプロモーションに参加する ・印西、成田のショッピングモールで実施 ・成田伝統芸能まつりにおけるプロモーション活動を実施 ※スタッフがコスプレでコスプレの館や町の情報をPR ○コスプレの館を核としたイベントの開催 ・ゆかたまつり（8月）・ドラムの里感謝祭（11月） ・民間団体による甲冑体験（年数回） ・フリーマーケット、キッチンカー（イベント時や週末）の招致 など	経済環境課
		×	コスプレの館の収入	千円	4272（H30）	6,300 （2,028千円増）	4,981千円 （709千円）	（3）活かされていない観光資源を発掘して活用する ○観光マップを活用して町の魅力をPRする ・里山を活用したウォーキングマップの配布 （安食駅～里山～ドラムの里～下総松崎駅） ※配布場所：安食駅、役場、ドラムの里 ・ドラムの里から白鳳道を経由して龍角寺への案内パンフ作成 （動画での解説可能） ※配布場所：安食駅、役場、ドラムの里	経済環境課
		×	コスプレの館利用者数 （外国人含む）	人	2155（H30）	2,900 （745人増）	1,960人 （940人減）	（4）観光客を町中に誘致する ○町内の飲食店や寺社などを掲載したサイクリングマップを作成し、レンタサイクル利用者以外にも町内のスポットを紹介した。（ドラムの里で配布） ○物産館でのまちなか店舗の商品を販売することでPRを実施	経済環境課
		×	町内観光客数	千人	506（H30）	590 （84千人増）	301 （289千人減）		経済環境課
		×	成田市等との新たな連携事業	事業	—	—	0		経済環境課
		—	安食駅の改修に併せた観光発信拠点整備年度	人	—	—	—		企画財政課

施策の評価	×	町内観光入込客数は、コロナ禍前には未だに戻っていない。アフターコロナを見据えての情報発信やイベント内容の見直しなどが功を奏し、観光客数はコロナ禍前の約6割まで回復してきている。特に、コスプレの館を利用する外国人観光客は団体ツアー客を含めコロナ禍前より増加傾向である。今後は、近隣市町や房総のむら、成田空港周辺ホテルとの連携を一層強化し、観光PRを継続し入込客数を増加させる。 また、休止中の成田空港周辺ホテルからのシャトルバスの再開に向けては、町にとっても重要な交通手段の一つであることから、引き続き再開の要請を行う。
-------	---	---

戦略3【若い世代をはじめ誰もが住みやすい栄町をつくる～若い世代が転入したい、住み続けたい栄町づくり～】

No.	施策名	重要業績評価						取組内容	担当課
		達成状況	指標名 (KPI)	単位	従前値 (基準年)	R5目標値	R5実績値		
1	若者が転入しやすい栄町づくり	◎	駅南側地区への新たな住宅建築戸数	戸	—	72 (累計値) (72戸増)	82 (累計値) (82戸増)	若者が転入しやすい栄町づくり (1) 若い世代が住みやすい受け皿を整備する ○駅周辺地区への住宅開発の誘導 ・安食駅南側地区の開発に向け、デベロッパ1社との協議を実施した ○駅南側へのアパート建築の誘導 ・土地所有者や民間事業者への働きかけを行った ○空き家計画に基づく空き家バンク制度の充実や空き家・空き地の活用の促進 ・不動産相談会を開催 月に1回開催、年12回実施 ・空き家バンク実績 登録6件 成立4件 (2) 町のイメージアップを図る ○若者が注目するイベントを開催 ①シーズンイルミネーション ・安食駅周辺地区シーズンイルミネーションを実施(12月から2月) ○町のPRの推進 ①LINEなどのSNSの活用 ・SNSで発信した情報へのフォロワー数: Facebook: 242件 ・Twitter: 1,531件・Instagram: 1,344件 ・イベント情報を掲載したサイト数・イベントサイト(イベントバンク等)数 : 延べ57サイト ②メディア等を活用した移住促進のPR ・子育て世代に向けた情報誌「ミキハウスHappy-note」に掲載⇒全国164件の資料請求 ・住宅展示場や不動産事業者276社に対し町の定住・移住パンフレットを配布しPRした	都市建設課
		×	若い世代(0歳～29歳)の構成比	%	19.97 (R元)	20.00 (0.03%増)	18.77 (1.20%減)		企画財政課
		◎	奨励金制度を活用した若い世代の転入者(0歳～39歳)5年間で800人	人	122 (H30)	652 (累計値) (530人増)	955 (累計値) (833人増)	(3) 若い世代が転入しやすくなる支援に取り組む ○若い世代の転入者支援制度を充実 ①若い世代の転入者への奨励金制度の検討 ・定住・移住奨励金(81件)【12,850千円】 ・移住者子ども加算金(47件)【7,490千円】 ・医療職保育職転入支援金(7件)【1,100千円】 ②Uターン支援金の検討 ・Uターン支援金(52件)【8,240千円】 ③在宅勤務者支援金の創設 ・在宅勤務者転入者応援金(14件)【700千円】	企画財政課
		◎	アパート建築数(部屋数)	室	—	60 (累計値) (60室増)	61 (61室増)	(4) 行政のデジタル化の推進に取り組む ○若い世代のニーズに対応した行政のデジタル化の推進 ①LINEなどのSNSを活用した行政情報の提供 ・SNSで発信した情報へのフォロワー数: Facebook: 242件 ・Twitter: 1,531件・Instagram: 1,344件 ・イベント情報を掲載したサイト数・イベントサイト(イベントバンク等)数 : 延べ57サイト ②施設予約や申請手続き等のオンライン化の検討 ・マイナンバーカードを活用した行政手続きのオンライン化の拡充 ・コロナワクチン接種予約や子育て相談、キッズランド使用や、乳幼児の各種健診 のLINE予約(継続)	都市建設課

施策の評価	○	若者世代が転入する一つのきっかけとして各種転入支援制度を充実させ、5年間の目標とした奨励金制度の活用による若い世代の転入者数については、目標値を上回る955人と達成することができた。しかしながら、若い世代の構成比については、比率を変えるまでには至らなかったものの、人口動態で流入者数が流出者数を77人以上上回る「社会増」となったことから、今後も住宅開発の誘導、転入支援制度を充実させ、若者世代の増加対策に取り組んでいく。
-------	---	---

2	地元にながら就職しやすい栄町づくり	—	町内在住者の町内企業及び空港の雇用数の増加	人	—	—	—	地元にながら就職しやすい栄町づくり （１）若者の就業機会を確保し転出者を抑制する ○求人情報を収集しホームページ等で積極的に提供 ①地元企業の求人情報を提供 ・町ホームページ上で、町内企業の募集情報を掲載 ②成田空港など地元から通勤できる企業の求人情報を提供（戦略2と連携） ・町ホームページ上で、空港関連、医療関係、近隣企業の募集情報を掲載	企画財政課
		◎	求人情報提供企業数	社	60（H30）	76 （16社増）	89社 （29社減）	経済環境課	
施策の評価		◎	空港関連企業の就職を一元的にサポートするナリタJOBポートの案内をHPに掲載したことで、ホームページから成田空港及び関連企業の求人情報提供数が増加した。また、2月に実施した成田空港関連企業合同説明会の広報を実施するなど、若い世代の就職時期の流出を食い止めるため、引き続き町内企業はもちろん成田空港関連企業など近隣企業も含めた情報発信を進めていきたい。						
3	通勤・通学がしやすい栄町づくり	×	安食駅利用者数	人	5046（H29）	5,010 （36人減）	3942 （1,104人減）	通勤・通学がしやすい栄町づくり （１）安食駅が利用しやすくなるようにする ○安食駅の機能向上 ①駅舎の改築⇒安食駅整備に係る基本構想をR2年度策定し、基本構想で示された整備パターンについて町民アンケートを実施 ②ホームへの上屋設置促進⇒要望活動を実施 ○成田線利便性向上の促進（増発等） ①成田線活性化推進協議会での要望 ⇒朝のラッシュ時の増便、自動券売機の終日稼働、窓口営業時間の復活などの要望活動を実施 ②千葉県JR線複線化等期成同盟での要望 ⇒朝のラッシュ時の増便、自動券売機の終日稼働、窓口営業時間の復活などの要望活動を実施 ○駅周辺Wi-Fi環境の充実⇒安食駅前のWi-Fi環境整備済み	企画財政課
		△	鎌ヶ谷・本埜線BPの整備開通		—	R4年度中	R6.3.27	（２）主要幹線道路の整備を促進し、新たな移動手段を確保する ○国・県道の整備を促進する。 ①鎌ヶ谷・本埜線BPの整備促進 ⇒令和6年3月27日に供用開始 ②安食交差点渋滞解消促進 ⇒用地買収及び補償交渉に同席し県の支援を実施	都市建設課
		—	安食交差点の渋滞解消		—	R6年度中	— 未完了		都市建設課
施策の評価		△	安食駅の駅舎改築については、JR側との協議が難航しているが、ホームなどのバリアフリー化については大筋の合意が得られ6年度以降に具体化するための協定締結し協議に入る予定。また、成田線の利便性向上のため沿線自治体での要望活動を継続的に実施しているが、安食駅の自動券売機の終日稼働を実現できた。						
4	外国人も住みやすい栄町づくり	◎	外国人居住者の増加	人	246（H31）	286 （40人増）	422 （176人増）	外国人も住みやすい栄町づくり （１）外国人にも暮らしやすい環境を実現する ○外国人住民への情報提供不足を解消する資料 ①外国人暮らし情報の提供⇒R2年度より引き続き町HPで生活支援情報を提供 ②窓口等への多言語翻訳機導入⇒R2年度購入した8台の翻訳機を活用 ③外国語表記の看板設置（ドラムの里）⇒R2年度設置済み	企画財政課
		×	町内企業で働く外国人労働者数	人	52（H30）	90 （38人増）	58 （6人増）		経済環境課

施策の評価	○	外国人居住者は、目標を大きく上回るスピードで増加しているが多国籍のため、情報提供方法や表示サインなどが課題として今後の取り組みを考える必要がある。
-------	---	---